

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
大豆	吸実性カメムシ類	やや少	やや少
ばれいしょ	アブラムシ類 ジャガイモガ ヨトウムシ類、オオタバコガ (注意報第7号継続、防除情報第16号継続)	並 やや少 やや少	並 やや少 並
いちご (本圃)	うどんこ病 炭疽病 (<i>G.cingulata</i>) アブラムシ類 ハダニ類 ハスモンヨトウ (注意報第7号継続)	並 並 並 並 並	並 並 並 並 やや多
ブロッコリー	ハスモンヨトウ (注意報第7号継続) オオタバコガ (防除情報第16号継続)	並 並	やや多 やや多
レタス	ハスモンヨトウ (注意報第7号継続) オオタバコガ (防除情報第16号継続)	並 やや少	やや多 並
かんきつ	青かび病、緑かび病 ミカンハダニ	やや少 少	やや少 少

【発生予報】 本文の()内は平年値

大豆

1. 吸実性カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(9筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率3.6%、株当たり虫数0.0頭、発生圃場率34.4%)。

イ 10月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は32.0%(30.3%)、株当たり虫数は0.4頭(0.4頭)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

一部の薬剤で感受性の低下が報告されているミナミアオカメムシの発生が圃場でみられているので、薬剤の選定にあたっては十分注意する。

ばれいしょ

1. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は0.6%(0.4%)、発生圃場率は15.0%(8.0%)であった。

2. ジャガイモガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(被害株率0.4%、発生圃場率10.8%)。

3. ヨトウムシ類(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ)、オオタバコガ

平成22年10月1日付病害虫発生予察注意報第7号(ハスモンヨトウ) 防除情報第16号(オオタバコガ)を継続。

その後の発生状況は以下のとおり。

ア 10月上旬の巡回調査(20筆)の結果、被害株率は1.7%(8.0%)、発生圃場率は20.0%(49.3%)であった。

イ ハスモンヨトウのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺量は、9月下旬以降平年より多く推移している(図1)。

ウ オオタバコガのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺量は、9月下旬~10月上旬に増加した(図2)。

エ 向こう1ヶ月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

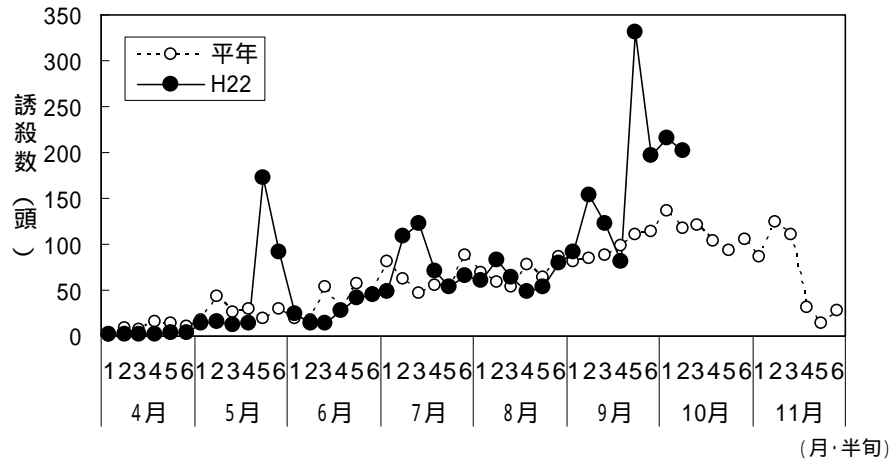


図1 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町)

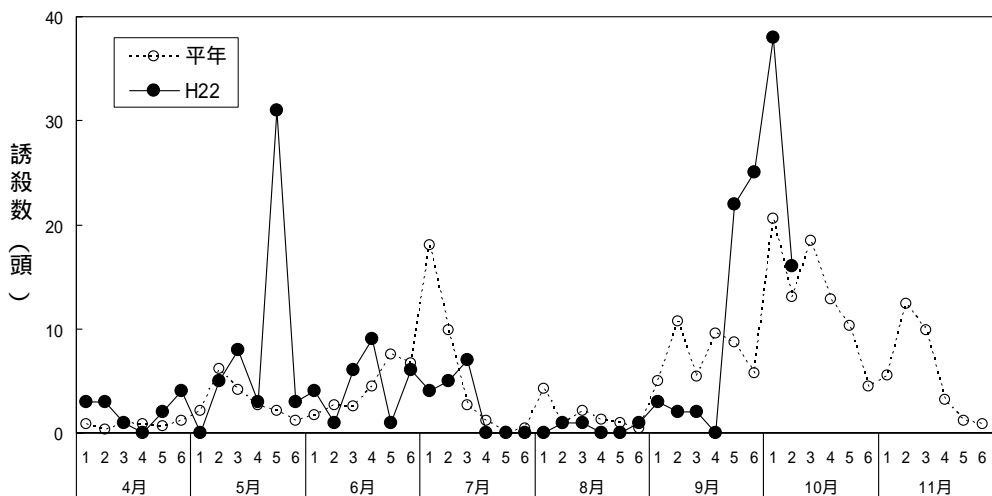


図2 フェロモントラップにおけるオオタバコガ誘殺状況(諫早市小船越町)

H22より粘着板からファネルトラップに変更

平年: H12~H21の平均値(最大・最小除く)

(月・半旬)

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率0.5%)。

2. 炭疽病(*G.cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.1%、発生圃場率7.0%)。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.5%(1.1%)、発生圃場率は14.8%(11.6%)であった。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.9%(1.9%)、発生圃場率は18.5%(16.2%)であった。

5. ハスモンヨトウ

平成22年10月1日付病害虫発生予察注意報第7号を継続。

その後の発生状況は以下のとおり。

ア 10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、食害株率は11.7%(9.7%)、発生圃場率は77.8%(75.5%)であった。

イ 病害虫防除員の報告では、平年並~やや多であった。

ウ フェロモントラップ(諫早市)による誘殺量は、9月下旬以降平年より多く推移している(ばれいしょの項参照)。

エ 向こう1ヶ月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

ブロッコリー

1. ハスモンヨトウ

平成22年10月1日付病害虫発生予察注意報第7号を継続。

その後の発生状況は以下のとおり。

ア 10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率10.1%(3カ年平均12.2%)、発生圃場率は58.3%(3カ年平均61.1%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)による誘殺量は、9月下旬以降平年より多く推移している(ばれいしょの項参照)。

ウ 向こう1ヶ月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

2. オオタバコガ

平成22年10月1日付病害虫発生予察防除情報第16号を継続。

その後の発生状況は以下のとおり。

- ア 10月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(3カ年平均 寄生株率0.8%、発生圃場率11.1%)。
- イ オオタバコガのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺量は、9月下旬~10月上旬に増加した(ばれいしょの項参照)。
- ウ 向こう1ヶ月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

レタス

1. ハスモンヨトウ

平成22年10月1日付病害虫発生予察注意報第7号を継続。

その後の発生状況は以下のとおり。

- ア 10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.0%(0.7%)、発生圃場率は25.0%(12.2%)であった。
- イ フェロモントラップ(諫早市)による誘殺量は、9月下旬以降平年より多く推移している(ばれいしょの項参照)。
- ウ 向こう1ヶ月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

2. オオタバコガ

平成22年10月1日付病害虫発生予察防除情報第16号を継続。

その後の発生状況は以下のとおり。

- ア 10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率0.5%、発生圃場率8.2%)。
- イ オオタバコガのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺量は、9月下旬~10月上旬に増加した(ばれいしょの項参照)。
- ウ 向こう1ヶ月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

かんきつ

1. 青かび病、緑かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

- ア 10月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率1.6%)。
- イ 向こう1か月の降水量は平年並の見込みである。

2. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

- 10月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は1.1%(5.4%)、発生圃場率は17.9%(36.2%)であった。

【参考】
気象

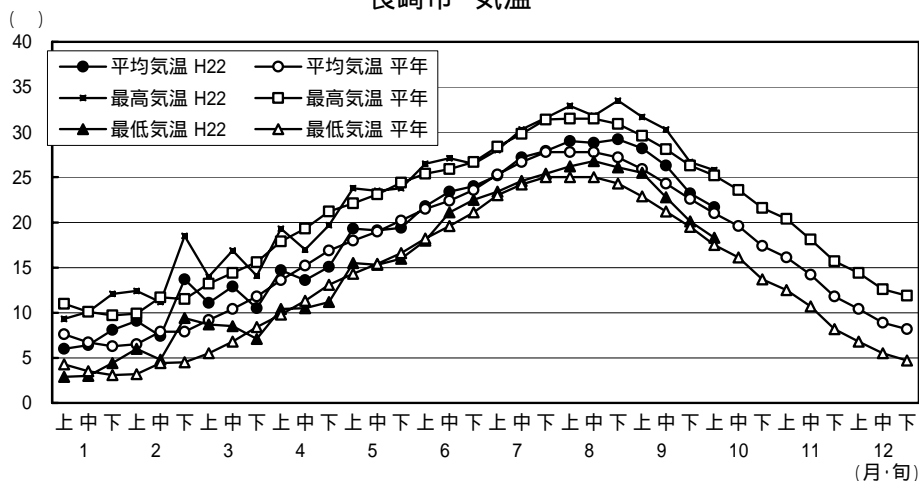
(平成22年10月15日発表 1か月予報 福岡管区気象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

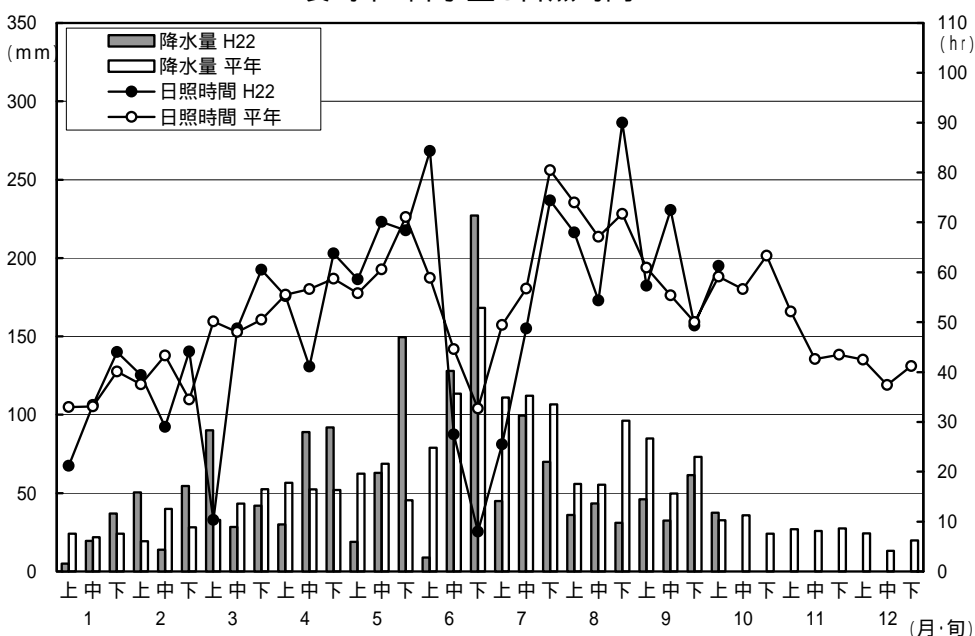
予報対象地域：九州北部地域

平成22年の気象経過 (長崎海洋気象台)

長崎市 気温



長崎市 降水量と日照時間



病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027